

せいとつ病院です

● 特集

診断と治療「ブラッドパッチ」ができる施設

脳脊髄液減少症

● 特集 2

利便性の向上、医療の効率化、患者満足度の向上
地域医療連携支援システムSMILE

●ズームアップ専門外来

関節リウマチ患者さんのQOL、治療の質の向上へ
リウマチ外来

●パートナーシップ医療

医療相談室

●こんにちは体験ルポ

糖尿病教育指導入院の巻

●医療をささえる看護のちから

日本糖尿病療養指導士の紹介

理 念

患者さまの人権を尊重し
インフォームド・コンセントを大切に
安全で最適な医療の実現をめざします

基本方針

患者さまの一日も早い社会復帰・家庭復帰への支援をめざし
安心して任せられる医療とサービスを提供します

地域との連携を大切にし、かかりつけ医との協力のもと
24時間信頼される診療体制を充実させます

最新・最良の医療水準をめざして研修・教育に努め
レベルアップを図ります





特集

脳脊髄液減少症

2 特集 脳脊髄液減少症

脳脊髄液減少症の診断と治療「ブラッドパッチ」ができる施設です

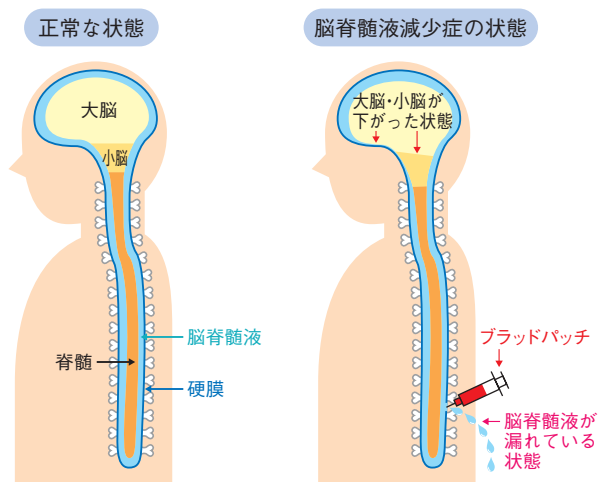
脳脊髄液減少症とは

10年ほど前から、その存在があきらかになってきた疾患です。最初は腰椎穿刺をおこなったときの髄液圧が低いものがみつかることが多かったため、「低髄液圧症候群」と呼ばれていました。しかし、必ずしも低髄液圧のものばかりでないことが分かり、「脳脊髄液減少症」と呼ばれるようになりました。

脳脊髄液減少症は、硬膜に何らかの原因で穴があき、髄液が硬膜外腔に漏れている状態があると考えられています。最初は漏れつづけるようですが、次第に体が髄液を多くつくるようになり、ある程度は代償されるともいわれています。

原因は交通事故や重いものを持ったり、激しい咳などさまざまですが、あきらかな原因がない例もしばしばみられます。脳脊髄液が減少すると、脳や脊髄が下方に動くことで、脳の静脈などが引っ張られて、頭痛を起こすと考えられています。

症状の典型的なものでは、立ったときや座ったときにしばらくすると起こり、だんだんひどくなる頭痛です。15分ほどたつと、頭痛がしはじめ、数時間で耐えられなくなり、横になってしまいます。横になると症状は軽快してくるので、寝たり起きたりの生活となってしまいますが、長年放っておくと、慢性的に疲労を感じる状態になることも多いようです。



検査・評価

診断方法としては、脳槽シンチ、MRIがおこなわれます。脳槽シンチとは、脳脊髄液のある硬膜の袋のなかに放射能を持つ物質（インジウムDTPA）を注射して1時間後、3時間後、5時間後、24時間後の4点で撮影をおこない、脳脊髄液の漏れを観察します。髄液漏出のある例では、髄液の漏出がみられるか、膀胱が早期に写ってきます。

写真を示しますが、図1は正常例、図2は髄液漏出がみられる例、図3は膀胱が早期に写ってくる例です。

MRI(図4)では脳の下垂や硬膜が厚くなり、造影剤で明瞭に観察されますが、脳槽シンチほど敏感ではありません。

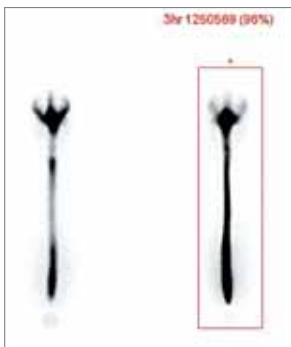


図1 脳槽シンチの正常像

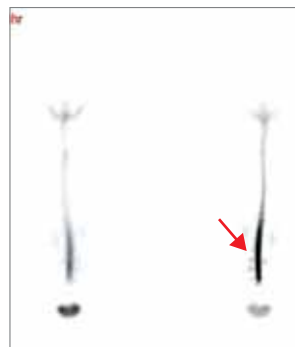


図2 髄液漏出像



図3 膀胱早期描出

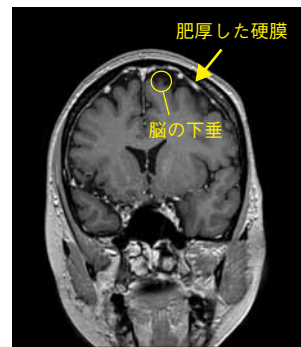


図4 MRI画像

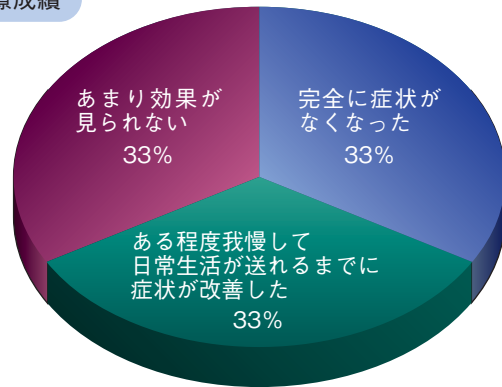
治療「ブラッドパッチ」

「ブラッドパッチ」とは、患者さんご自身の血液を数十cc採取して硬膜外腔に注入する方法です。血液で穴をふさぐことで炎症反応を起こし、時間経過とともに起こる組織修復によって、完全に穴がふさがることを期待しています。1回の治療であまり効果がみられない場合は、3ヶ月以上の間をおいて、複数回ブラッドパッチをおこなうこともあります。



起きあがると激しい頭痛がして日常生活ができない症状で悩まれている方は、一度受診をおすすめします

治療成績



症例実績

2008年3月～12月 7件
2009年1月～12月 41件
2010年1月～9月 37件



脳神経外科主任医長 井上 琢哉

日本脳神経外科学会専門医

脳神経外科 TEL 093-671-9342

診療の都合により、お問い合わせは13時以降にお願いします。

医療情報を地域医療機関と共有する
 利便性の向上、医療の効率化、患者満足度の向上をめざし
 一歩進んだ地域医療連携支援システムを提供しています



SMILEとは？

新日鐵八幡記念病院では、昨年3月に地域医療連携支援システム「SMILE」を開発しました。その後、9病院、登録患者数75名(2010.11月現在)による試行をおこない、このたび本格的に稼動することとなりましたので、ご紹介します。

「SMILE」は、患者さんの同意を得て参加するシステムで、以下のような機能があります。

① 診療記録開示

- 経過記録等電子カルテ記載の記録・オーダー記録
- 看護経過記録・実施記録

② 検査結果の参照

- 画像検査結果(放射線画像)
- 検体検査結果



③ 診療・検査予約

- 診療予約・検査予約
- 予約患者診療状況照会

患者さんは、かかりつけ医の医療機関で、当院での検査結果を早く知ることができます。

SMILEの特徴

「SMILE」は、インターネット接続可能なパソコンとブロードバンド環境があれば利用できます。特別にインストールするソフトウェアも必要ありません。

さらに、公開する情報コンテンツが多く、そのほとんどがリアルタイムであることが特徴です。院内電子カルテ書き込みと同時に公開用カルテを更新、予約は電子カルテシステムデータを直接更新、参照できます。



セキュリティ

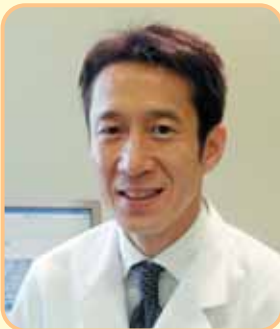
情報を公開するにあたり、高い安全性を確保しています。外部からのデータアクセスを遮断するとともに、クリニックからのセッション切断と同時にデータをサーバーから削除、クリニックの端末には残さない、印刷ができないなどの考慮をしています。

SMILE試行参加医療機関の先生方にご感想をうかがいました



八幡東区 長村医院 院長 長村 俊志 先生より

昨年2月より、「地域連携システムSMILE」に参加させていただいております。SMILEのシステムは診療所のPCを通じて、紹介した患者さんの電子カルテの情報を共有できるので、日々の診療に非常に役立っています。患者さんは、処方や検査の内容、結果を覚えていないことが多く、また、大病院の先生に質問するのは、勇気もいるし、受診の手間もかかります。その様な時にSMILEがあれば、いつでも当院で詳しく説明することができるので、患者さんにも喜ばれています。また、患者情報の共有化は病院とクリニック、クリニックと患者さん、病院と患者さんの相互の信頼を深めることに非常に役立っています。今後も病院に信頼していただけるクリニックをめざして、診療していきたいと思っております。



八幡東区 野田医院 西田 英一 先生より

当院では現在40名ほどの患者さんを登録させていただいております。登録にあたり患者さんに説明をすると、みなさん様に「私は説明を聞いても専門的なことは分からないので、いつも診ている先生に検査結果などを知ってもらえて安心」と大変好評です。血液検査ばかりでなく、超音波検査の所見、レントゲンなどの画像、投薬情報も自院で確認できるため、二重検査や二重投薬の防止にもつながります。また、入院中の治療経過も閲覧できるため、当院でのより適した治療の参考にさせていただいております。そして、何より導入やメンテナンスの手間が全くかからず、無料で利用できるのもありがたいです。今後も登録患者をどんどん増やしていく予定です。

SMILEに参加するには

患者さんは、SMILE参加医療機関でのご自身の情報公開の可否および公開する情報の範囲を診療科単位で選択できます。参加同意書での手続き後、次回受診時より診療情報を見ることができます。



今後も、病歴・入院歴や放射線治療計画・治療経過、リハビリ治療計画など、機能を追加拡大していく予定です。また、課題やご要望にも対処してまいります。

「SMILE」は使いやすく役に立てるシステムに
さらに進化します



対応窓口
情報管理・システム部 渡邊 貴子
TEL 093-671-9390



情報管理・システム部長 河野 俊

■お問い合わせ：情報管理・システム部 TEL 093-671-9520

専門外来を通して、関節リウマチ患者さんのQOL・治療の質の向上につとめる

リウマチ外来

病気を早く見つけ、早く治療を開始することが重要

関節リウマチとは、関節の腫れと痛みを主症状とした病気で、いまだに原因不明の病気です。免疫異常を背景としており、関節以外にも肺や腎臓などの内臓にも障害を起こす場合があります。早期に診断し適切な治療をおこなわないと、関節が壊れて身体障害者となることがあります。

以前は、有効な治療薬が少なかったのですが、近年メソトレキセート(商品名:メトレートなど)が主たる治療薬となり、数年前より生物学的製剤(商品名:レミケード・エンブレル・アクテムラなど)が開発されてから、かなり治療がすすんできました。

また、発症早期に治療を開始することで、関節リ

ウマチの進行を防ぐことができることもわかってきました。病気を早く見つけ、早く治療を開始することが重要なのです。

複数の関節がはれて、痛みが強くなり、朝起きたときに関節がこわばるような症状が出てきたら、関節リウマチである危険性がありますので、早めにリウマチ科を掲げた医療機関を受診し、診断を受けてください。関節リウマチには診断基準があり(表1)、症状といくつかの検査の組み合わせで診断が可能です。



整形外科部長 田山 尚久

日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ財団登録医

リウマチ外来のご紹介

整形外科で関節リウマチの診断を受けた患者さん専用の専門外来で、医師は香月・田山・里村の3名です。主治医制で、各医師が一般外来で関節リウマチと診断した患者さんのうち、「リウマチ外来」での診療を希望された方を診療します。

関節リウマチかどうかの診断を希望される方は、まず整形外科一般外来を受診してください。

一般的に関節リウマチ患者は、女性に多い疾患で

あり、午前中に調子の悪い人が多くみられます。そのため、午後からの方が受診しやすいのではないかと考え、外来は午後から診察時間をゆっくりと長く設けています。また、待合室では、病気に対する取り組み方など、患者さんのコミュニケーションの場となっています。関節リウマチは、長期の治療が必要で、身体障害をとまなうことが多いので、患者さん同士の情報交換は有用なことが多いと思います。

表1 早期関節リウマチ診断基準(日本リウマチ学会、1994年)

- ① 3関節以上の圧痛または他動運動痛
- ② 2関節以上の腫脹
- ③ 朝のこわばり
- ④ リウマトイド結節
- ⑤ 赤沈20mm/hr 以上の高値またはCRP陽性
- ⑥ リウマトイド因子陽性

左の6項目中、3項目以上を満たすもの
この診断基準に該当する患者は詳細に経過を観察し、
病態に応じて適切な治療を開始する必要がある



整形外科外来 TEL 093-671-9317

リウマチ外来は毎週金曜日13:30より診療しています。



パートナーシップ医療

安心して療養していただくために、問題解決に誠意をもってつとめます

医療相談室

医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker ; MSW)という存在をご存知でしょうか?通称MSWと呼ばれている病院の医療福祉相談員です。わたしたちは患者さんやご家族よりお話を伺い、より良い解決への糸口を見出すお手伝いをおこなっています。

近年の高齢化や医療制度の改革などで、現在多くの病院にMSWが在籍しています。新日鐵八幡記念病院の医療相談室には、4名の社会福祉士の資格を有するMSWと、1名の訪問看護認定看護師がおり、日々業務にあたっています。

相談内容は、病気によって生じる退院後の介護や、経済的な問題、家族関係の調整、社会保障制度(高額療養費制度・介護保険制度・身体障害者福祉制度)などのご紹介、転院・入所・在宅調整等、治療や療養の妨げになる生活上の悩みや不安についてなどさまざまです。



[後列左より] 訪問看護認定看護師 突田和
MSW 児玉明香・岩本雅代

[前列左より] MSW 清國睦美・三宅仁史



たとえばこんなとき…

1 退院に関すること

- 退院後、家族だけで介護できるか心配
- 転院先を探すように言われたけど、どうしたらいいの?
- どこにどのような施設があるのか知りたい

2 療養生活に関すること

- 心配事があるが、どこに相談していいかわからない

3 経済的な相談

- 医療費のことが心配
- 病気で働けなくなってしまい、今後の生活費が心配

4 介護保険に関する相談

- 介護認定の申請の方法が分からない
- どのようなサービスが受けられるのか知りたい

5 医療安全に関する相談

- 医療に対する疑問・質問を一緒に考え、解決へのお手伝いをします

6 在宅療養への支援

- 継続的に医療処置を必要とし、ご自宅へ戻られる患者さんへ、専門の看護師が在宅医やケアマネジャーなどと連携を取り、退院のお手伝いをします
- 在宅療養についての相談に対応します



訪問看護認定看護師は、医療的な処置が必要になった患者さんでも、在宅医やケアマネジャーとの連携をおこなうことで、住み慣れた自宅で安心して生活できるように在宅療養のサポートを行います。

どのようなことでも、ひとりで悩まずご相談ください

■ご利用方法 ①主治医または病棟師長に申し出ください

②直接、医療相談室にお越しください

事前に相談日時をご連絡いただけますとお待たせせず、ゆっくり時間を取ることができます。

■お問い合わせ 医療相談室(直通)

093-671-9506(三宅)

TEL 093-671-9345(清國)

093-671-9391(突田)

FAX 093-671-9556

■受付時間 平日 9:00~17:00

(日・祝日、第2・4土曜日は病院休診)

糖尿病教育指導入院の巻

新日鐵八幡記念病院では1988(昭和63)年より、12病棟で専任の看護師が担当し、糖尿病教育入院をおこなっています。2週間の入院期間で、糖尿病の病態や合併症を正しく学び、食事療法・運動療法の基礎知識を身につけ、退院後も続けることのできる治療をいっしょに考えて、決めていきます。また、教育と平行して、糖尿病の状態を把握するための検査もおこなっています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師などの専門スタッフがわかりやすく説明します。

今回は2週間にわたって、実際に体験してみました。

月曜日：12病棟教育担当看護師より
入院オリエンテーション

水曜日：理学療法士の話
運動療法の実際

糖尿病内科医師の話

1 週目



よろしく
お願いします!



胸を張って!
おなかを締めて!



水曜日：カンパセーションマップ

火曜日：薬剤師の話

金曜日：調理実習・栄養指導



2 週目

出る幕
ないなあ~



すごろくのようなクイズ形式で、
糖尿病についての勉強をします。

木曜日：
臨床検査技師の話



ほかにもたくさ
んのプログラム
があります。

金曜日：
修了証書授与



(左より)糖尿病内科
天野一志医長、中村宇大主任医長、中野可央里医師



検査部 看護部
相原 美加 高木 久美子

今回の取材

今回、2週間の教育期間に参加・取材させていただき、大変参考になりました。糖尿病を患い、これから病気との長い付き合いを自覚したみなさんの修了証書授与には、感無量!もらい泣きしてしまいました。そして、程度の差はあれ、同じ病気と戦う参加者の戦友に似た和気あいの会話を頼もしく思いました。糖尿病教室は、病気と向き合う自分づくりのための入院期間なんですね。

お問い合わせ 内科外来 TEL093-671-9302

私を磨くキャリアアップへの道 日本糖尿病療養指導士の紹介



日本糖尿病療養指導士といわれるスタッフがいることをご存知ですか？

日本糖尿病療養指導士(Certified Diabetes Educator of Japan:CDEJ)は、糖尿病を持った方たちのさまざまな悩みや相談におこたえするため、専門的知識を身につけた資格者です。

新日鐵八幡記念病院では、看護師5名・管理栄養

士1名・理学療法士1名が、医師の指示のもとに活動しています。

糖尿病のことは、ぜひ日本糖尿病療養指導士にお気軽にご相談ください。

日本糖尿病療養指導士誕生の背景

糖尿病患者やその予備群と推定される人数は年々増え続け、医療費も増加し、大きな社会問題となっています。糖尿病は「自己管理の病気」といわれ、日々継続する自己管理の成否が患者さんの将来像を強く決定します。しかし、これを実行・継続することは容易ではありません。

そこで、医師とともに患者さんの適切な自己管理をサポートできる医療スタッフの育成が必要となり、平成13(2001)年に第1回認定試験がおこなわれ、日本糖尿病療養指導士が誕生しました。現在、看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士など、約15,000名が全国で活躍しています。

日本糖尿病療養指導士の活動

日本糖尿病療養指導士は、患者さんが糖尿病をよく理解し、医師から指示された食事・運動・薬物療法を自宅で安全に継続できるように、ご家族とともに考え、適切な自己管理ができるように療養指導をおこなっています。

また、糖尿病患者会の企画・運営にも参加し、患者さんへの研修や行事をとおして親睦を深めています。日々看護にあたる看護師には、糖尿病に関する知識・技術教育などもおこなっています。

CDEJのほかにも北九州糖尿病療養指導士の資格を有するスタッフ（看護部2名、薬剤部1名、検査部2名、リハビリテーション部1名）が、一緒に糖尿病に対する活動をおこなっています。



日本糖尿病療養指導士

[後列左より] 看護部 尾崎まゆみ・藤本映理子 栄養管理部 安永勝代 看護部 下見弘子
[前列左より] 看護部 山原直美・金子いつみ リハビリテーション部 池永千寿子



看護部外来師長 下見 弘子



今回の小児病棟ナース
中村 衣里

こどもの平熱は、大人より高い傾向にあります。平熱には個人差がありますが、一般的に37.5℃までは発熱といえません。発熱の原因はウイルス感染症が多く、からだを守る防衛反応のひとつと考えられています。また、乳幼児は体温調節機能が未発達なため、環境の影響を受けやすく、ときには衣類の着せすぎの発熱ということもあります。

発熱時の対応

- 1 寒気やふるえ、手足が冷たいときなどは着るものや、かけものを増やし保温しましょう。
- 2 室温もエアコンなどで快適な温度に調整しましょう。これからの季節は乾燥にも気をつけてください。
- 3 高熱の場合は、嫌がらなければ氷枕や足のつけ根や脇の下を冷やしましょう。
- 4 ぐったりしているときには、高熱による消耗や、きつさを和らげるため、39.0℃以上を目安に解熱剤を使用しましょう。
- 5 高熱があるときは、体力の消耗を抑えるためにも入浴は控え、体ふきのほうが良いでしょう。解熱すれば入浴してもかまいません。
- 6 こどもは脱水になりやすいため、水分の補給をしましょう。水よりも電解質飲料(スポーツドリンク)などがおすすめです。飲まないときは、シャーベットや果汁なども与えてみてください。
- 7 食事は消化のよいものを食べさせてください。食欲がないときは、無理に食べさせる必要はなく、アイスやプリンなどの流動的で食べやすいものを与えましょう。

* 生後3か月未満の受診目安 *

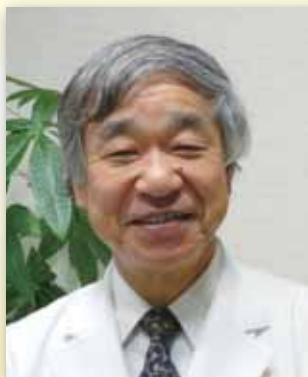
- 意識がはっきりしない
- けいれん、頭痛・嘔吐が見られる
- 水分をとれない、おしっこ量が少ない



熱が高くても活気があり、機嫌よく、水分も十分とれるようであれば少し様子を見ても構いません。しかし、2～3日発熱が続く場合は小児科を受診しましょう。

2011年 新年のご挨拶

病院長 佐渡島 省三



新年明けましておめでとうございます。みなさまお揃いで、よいお年をお迎えのことと存じます。本年は卯年ですので、それにちなみまして、みなさま方の健康を優しくサポートできるよう一層の飛躍をめざします。

昨年1月より世界最先端のガンマナイフが稼働し、4月から更新したりニアック装置とともに、外来化学療法も加えて、がん治療が大変効果的にできるようになりました。心筋梗塞、脳卒中などの救急疾患とともに、糖尿病や肝疾患、さらには変形性関節症、消化器疾患など日常的な病気にも全力をあげて取り組みます。

さらに本年は、みなさまのかけつけの先生方とインターネットを通じた医療情報の連携を進めてまいります。そうすることで、検査の予約や診断・治療をより迅速におこなうことができます。

今年も“患者さんにとってもっともよい医療”を実践してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

糖尿病食は健康食

糖尿病とは、血液中の糖をうまく取り込むことができず、血糖が高い状態が続くことをいい、それにより、さまざまな合併症が引き起こされます。適正な治療(食事・運動・薬物)によって、合併症を予防することが大切です。糖尿病の食事療法は、適正な量とバランスを考えながら食べる食事で、合併症の予防とともに健康で長生きするための原則でもあります。つまり、糖尿病食はバランスのよい健康食といえます。



栄養管理部 和田 沙央理

食事療法のポイント

- 1 指示エネルギーをまもり、1日3食、規則正しく食べましょう
- 2 食事はゆっくりよく噛んで、腹八分目を心がける
間食や夜食にも注意しましょう
- 3 食物繊維の多い食品を積極的に摂りましょう
食後、血糖の上がり方が緩やかになります
- 4 菓子類、ジュース、果物などは控えめに
- 5 アルコールはほどほどに



大切なのは継続することです。無理のない食事療法で、糖尿病と上手に付き合ってください。

TOPICKS

リハビリテーション部作業療法士 黒塚智幸さん WBC世界身体障害者野球大会で活躍 栄えある優秀選手賞に輝きました！



第2回世界身体障害者野球大会が、昨年11月6・7日に神戸スカイマークスタジアムで開催されました。長嶋茂雄さんが大会名誉顧問をつとめ、日本・韓国・台湾・ベネズエラ・アメリカが参加しました。

当院リハビリテーション部の黒塚智幸さんは、全国から選ばれた25名の日本代表「不死鳥JAPAN」の投手の一人として抜擢され、世界大会に挑みました。

日本はアメリカに4対1、台湾に2対0と快勝し、決勝戦でふたたびアメリカと対戦し、10対0で見事に優勝しました。

黒塚選手は、台湾戦と決勝アメリカ戦に出場し、好投打の活躍で、大会優秀選手として表彰されました。



▲阪神の矢野選手と



循環器科主任医長 加世田 繁

とうとう4回目の年男ですが、ずっと昨年と勘違いしていましたので、少し得した気分です。本年もよろしくお願いたします。



22病棟 新原 佳代子

今年で3回目の年女を迎えました。月日の経つのはあっという間ですが、今年も色々なことにチャレンジし、仕事にプライベートに充実した1年になるよう頑張りたいと思います。



リハビリテーション部 熊谷 謙一

2回目の年男です。仕事にも徐々に慣れ、今年から後輩もできます。現状に慣れることのないよう、日々精進していきたいと思っています。



12病棟 佐藤 法子

今年で2回目の年女、看護師になって3年目になるので、いろいろなことを経験し毎日忙しいですが、頑張っていきたいと思っています。

【内科】

神経内科	水曜日(第1なし)	15:00~
血液外来	金曜日	13:30~
甲状腺外来	第1・3土曜日	
膠原病外来	水曜日	15:00~
ペースメーカー外来	第1月・金曜日	13:30~
腹膜透析外来	火曜日	15:00~

【心療内科】

自律訓練外来 (カウンセリング)	月・火曜日	9:00~
	木曜日	14:00~
	土曜日	13:00~

【呼吸器科】

HOT外来 (在宅酸素療法)	火曜日	13:30~
SAS外来 (睡眠時無呼吸症候群)	土曜日	9:00~

【小児科】

小児アレルギー	月~金曜日	9:00~
小児循環器	第2木曜日	13:30~
小児神経	第4水曜日	13:30~
小児腎臓	第1・3水曜日	9:00~
小児肥満	木曜日	16:00~
	第1・3土曜日	15:00~
小児糖尿病(DM)	第1土曜日	14:30~

【外科】

ペインクリニック	水曜日	9:30~
----------	-----	-------

【整形外科】

リウマチ外来	金曜日	13:30~
--------	-----	--------

【形成外科】

美容外科	水・金曜日	13:30~
------	-------	--------

【耳鼻咽喉科】

めまい外来	第2・4火曜日	13:30~
-------	---------	--------

【放射線科】

放射線治療外来	月・木曜日	13:00~
---------	-------	--------

【緩和ケア】

緩和ケア外来	火曜日	9:30~
--------	-----	-------

【女性診療外来】

乳腺外来	火・木曜日	9:00~
------	-------	-------

診療科目	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科全般※ 093-671-9302	●		●		●		●		●		●	
心療内科 093-671-9302					新患 紹介のみ		再診		再診		月2回	
脳血管内科 093-671-9302	●		●		●		●					
呼吸器科 093-671-9303	●		●		紹介のみ		●		●		紹介のみ	
小児科 093-671-9323	●		●		乳幼児健診 予防接種	●	●		乳幼児健診 予防接種	●	●	
外科 093-671-9312	●		●		●		●		●		●	
呼吸器外科 093-671-9312	●				●							
血管外科 093-671-9312			●			●			●			
整形外科 093-671-9317	●		●		●		●		●		新患のみ	
形成外科 093-671-9320		●		●		●		●		●		●
脳神経外科 093-671-9342	●		●		ガンナイフ		●		ガンナイフ	●		
産婦人科 093-671-9326	●		●		●				●		月1回	
皮膚科 093-671-9327	●		●		●		●		●		●	
泌尿器科 093-671-9328	●		●		●		●		●		●	
眼科 093-671-9473	●				●				●			
耳鼻咽喉科 093-671-9332	●				●		●		●		●	
放射線科 093-671-9514	●	●	●		●		●		●		●	

※一般内科、消化器科、循環器科、糖尿病内科、腎臓内科 休診日：日曜、祭日、第2・4土曜日

ペットボトルキャップをあつめて
世界の子どもたちにワクチンを届けよう！



当院の環境保全・社会貢献活動に、あたたかい善意がよせられています。これまでに子ども用ワクチン688人分を届けることができました。(10月13日現在)

新日鐵化学さまは1万個達成されました

- ご協力ありがとうございます。
- 8月19日・9月27日・10月14日 鳴水市民センターさま
 - 9月13日 当院元職員
 - 9月16日 小野外科胃腸科医院さま
 - 10月20日 ファイザー(株)福岡医薬支店北九州西営業所さま
 - 10月22日 新日鐵化学(株)九州製造所さま

新任医師紹介



放射線科 木下 俊輔

医師5年目、日本医学放射線学会認定医となりました木下です。引野中学校、東筑高校を卒業した地元市民です。よろしく願っています。



呼吸器科 小田 桂士

半年前まで当院に在籍しておりましたが、再び戻ってくることができました。頑張ります。

編集後記

広報誌編集に関わるようになり、いつのまにか15年を過ぎてしまいました。気ままに過ごしていた独身者だった自分も、いつのまにか3人の父親となり、せいてつ病院も大きく生まれ変わろうとしています。そして広報誌もその歴史を刻み続けていかねばと思うこのごろです。 放射線部 中園 裕一郎

こんにちは
せいてつ病院です

発行日：2011年1月1日
発行部数：4000部

医療法人社団 新日鐵八幡記念病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp
編集・発行責任者：病院長 佐渡島 省三

●広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp